

2017年1月より新シリーズ刊行中！

アジア仏教美術論集

【全12巻】

監修 宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲

本体予価各 5,800 円＋税

A5 判上製カバー装 各巻平均 600 頁

**第一線の研究者らによるアジアの仏教美術研究の現在の到達点と
将来の課題を見通す待望の新シリーズ、堂々の刊行！**

本シリーズは、彫刻・絵画・工芸・建築などを含めた仏教美術が、アジア各地域・各時代においてどのような様相や特色を見せ、そこにいかなる問題が存在しているかを示すべく、地域・時代別に全12巻で構成する。様式論や図像学、年代論といった基礎的なアプローチはもとより、思想や信仰、社会や政治など、様々な分野と関わって生成、発展した様相を明かにすることを目指している。造形から何が読み解けるかという視点をもって、仏教学・考古学・歴史学・宗教学等と関連させながら、多様で豊潤なアジアの仏教美術に新たな光を当てていく。

各巻の論文は、国内の研究者のみならず、広く各国の第一線の研究者に執筆を依頼する。そこに見られる方法論の相違はまた、それぞれの国における研究の伝統と動向を映し出すものとなろう。

本シリーズが、アジアの仏教美術に関する研究の現在の到達点を明らかにし、将来の可能性を拓く第一歩となれば幸いである。

(『アジア仏教美術論集』刊行にあたって)より抜粋)

第7回配本 (2020年2月)

南アジア I (マウリヤ朝～グプタ朝)

責任編集 宮治 昭・福山泰子

本体価格 5,800 円＋税

A5 判上製カバー装 本文 644 頁 ISBN 978-4-8055-1125-1 C3370



中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは

仏教美術の始源へ――

ブッダを象徴的に表す初期仏教の時代から、仏像の創始を経て、東西文化との混淆のなかで大きく花開いた南アジアの仏教美術。日本・欧米における研究の到達点を明示する 19 本の論考＋総論による、豊穡なる古代インド仏教世界への招待。

目次

「アジア仏教美術論集」刊行にあたって
総論 南アジアの古代仏教美術

I 初期仏教の時代

アショーク王伝と仏伝

――パールフット彫刻の再考――

サーンチー第一塔南門東柱の仏伝場面

――主題・画像・プログラム――

景観の中のストゥーパ・僧院・聖遺物

――サーンチー地域における型式学的・空間的・時間的パターン――

宮治 昭
福山 泰子

岡本 健資

ピア・ブランカッチオ
(田辺 理訳)

平岡 三保子

ジュリア・シヨ
(岩井俊平訳)

II 北インドのクシャーン朝

クシャーン朝の仏像像を解き明かす

――マトゥラーおよびガンダーラにおける禪定、成道、説法、王者性――

比丘と比丘尼と「低俗な」実践とについて

――インド仏教における仏像崇拜の導入――

クシャーン朝マトゥラーにおける石製仏像の形式展開

III 南インドとスリランカ

アマラーヴァティー出土の仏坐像浮彫に関する再考察

カナガナハリ大塔におけるスジャーターの乳糜供養図について

――チャンダヴァラムの美術――

――アーンドラ・ブラデーシュ州シンガラコングダ丘上の仏教遺跡――

スリランカ早期仏教美術の評価

――「マハーワンサ」に見られる舍利・仏塔信仰――

――王権・僧団との関わり――

IV 北インドのグプタ朝と西インドのヴァーカータカ朝

希望、失意、栄光の記念碑

――インドを変えた五〇年にわたるフンとの戦い(四八四―五三四年)――

大英博物館所蔵ダネーサル・ケーラー出土仏像から読み解くグプタ王朝の政治構造

――西マールワー地方の仏教石窟のストゥーパ――

――インド建築史における位置づけ――

アジャンター後期壁画に見られる西方との交流

――いわゆる「胡人」表現を中心に――

V インドの基層文化と仏教美術研究

ヒンドゥー教の形成とヒンドゥー美術

――インドにおけるヤクシャ信仰と仏教美術の形成――

――四天王とその眷属の鬼神を中心に――

――鑿と絵筆で語られた説話――

――仏教研究における美術史の重要性――

あとがき

執筆者・翻訳者一覧

モニカ・ジン
(檜山智美訳)

永田 郁

横地 優子

福山 泰子

野々垣 篤

マイケル・ウィリス
(福山泰子訳)

ハンス・バッカー
(宮本亮一訳)

オズモンド・ボヘアラッチ
(森美智代訳)

藪内 聡子

ロベルト・アールト
(上枝いづみ訳)

オズモンド・ボヘアラッチ
(森美智代訳)

中西 麻一子

島田 明

定金 計次

グレゴリー・シヨペン
(岸野亮示訳)

ジュヴァンニ・ヴェラルディ
(上原永子・福山泰子訳)

アジア仏教美術論集 【全 12 巻 年 2 回配本】

既刊 近刊

責任編集

責任編集

南アジアI

(マウリヤ朝～グプタ朝)

宮治 昭・福山泰子

東アジアII (隋・唐)

肥田路美

南アジアII

(ポスト・グプタ朝～パーラ朝)

立川武蔵・森 雅秀

東アジアIII

(五代・北宋・遼・西夏)

板倉聖哲・塚本麿充

中央アジアI

(ガンダーラ～東西トルキスタン)

宮治 昭

東アジアIV (南宋・大理・金)

板倉聖哲

中央アジアII (チベット)

森 雅秀

東アジアV (元・明・清)

宮崎法子・森 雅秀

東南アジア

肥塚 隆

東アジアVI (朝鮮半島)

井手誠之輔・朴 亨國

東アジアI (後漢・三国・南北朝)

濱田瑞美

東アジアVII

(アジアの中の日本)

宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲